

# 推進校別中間報告書

## 1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
ひろしましりつせいわちゅうがっこう 広島市立清和中学校	広島県広島市安佐北区安佐町飯室 3737	082(835)0006	510	

## 2 研究課題

地域の人材を活用し、家庭や地域との連携による開かれた道德教育の充実

## 3 研究主題とその設定理由

「豊かな心を持ち、主体的によりよく生きる生徒の育成」  
～学校と家庭・地域を結ぶ道德教育の実践を通して～

本校の生徒は、豊かな自然に恵まれた環境で育ち、素直な生徒が多いが、基本的な生活習慣、規範意識、ルール・マナーにやや課題がある。人としての「生き方・在り方」は家庭教育や学校教育を基礎とし、地域での体験を通して根付くことから、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、協働するシステムの構築を図り、町ぐるみによる道德教育を目指して上記主題を設定した。

推進に当たっては、道德的価値を自覚する「道德の時間」の充実はもちろんであるが、ボランティア活動や地域とのふれあい・交流を展開する「総合的な学習の時間」と密接な関連を図り、道德性を育成することが重要であると考えている。

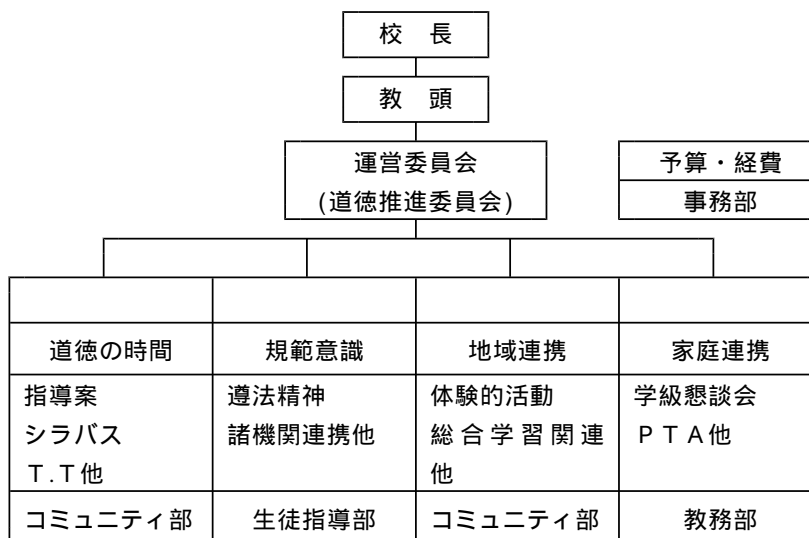
## 4 第1年度の研究の特色及び概要

はじめに、本事業のねらいを効果的に推進し、また、学校全体での取組となるように、校務分掌の各部の機能を考慮し、図1のような推進体制を組織した。

本校では、地域との連携の推進と「道德の時間」・「総合的な学習の時間」を担当するのがコミュニティ部であり、4月の年度始めの各地区(5地区)での集会と協力者会議において本事業の概略を説明し、協力をお願いをした。

部内で、今回の課題である地域との連携の方法を検討する中で、生徒たちの意欲とともに道德的な実践力を育てるためには、体験活動と関連づけ

図1 校内推進組織図



た指導がより効果的であると考えた。

その観点で、これまでの取組の充実と新しい資料の開発に取り組むこととした。

(1) 取組の充実

2 学年・・・「男女の協力」(2 年) ～ 家庭との連携と体験学習～

家庭での家事体験 男女の協力について(道徳) 野外活動

家庭で食事づくりを中心に家事に取り組むことにより、男女の協力の必要性を感じ取らせ、野外活動を実践の場に設定した。保護者に学校の取組に参加してもらい、道徳教育を理解してもらうことが、連携の第一歩であり、以後の連携の基盤づくりとなったように思う。

3 学年・・・「体の不自由な人へのいたわり」～ 地域との連携と体験学習～

障害を持つ方との接し方 地域の方の参加・協力 車いす・アイマスク体験の活用

地域に在住の障害者(車イス)の方から話を聞くことで、障害者の方の思いを、より身近に現実的にとらえたように思う。ただ、体験活動の後、感想や思いを交流するなどの取組を行ったが、「体験活動」と「道徳の時間」のリンクの方法が課題である。



(2) 新しい教材の開発

1・2 学年・・・「掃除について考える」～ 地域・家庭との連携と体験学習

掃除をすること(道徳) 「掃除に学ぶ会」(総合)

掃除について考えた後、後日、その確かめとして生徒と保護者、地域の方でトイレと教室の清掃活動を行い、その感想等を交流した。

地域からは区役所の出張所、野外活動センター、自治会、老人会、J A など地域からの参加者があり、地域の学校に対する関心の強さを感じるとともに、協力的な感触を得た。これらの行事の地域への案内は、本校が 4 年前に地域とのきづなとして立ち上げた下のような地域ネットワーク(図 2)を通じて行った。参加された保護者からは、



これまでの授業参観とは違う子供たちの様子に驚かれたり、地域の方からは、地域の情報や人材について聞くことができたりと、家庭・地域とのつながりが強まるとともに今後の連携の上で大変役立つ取組であった。

図 2



## 1 学年・・・「パラリンピックをめざして」～地域の人材の活用

### パラリンピックをめざして(道徳) 崎本龍司さん講演



授業で使用した資料

夏休みの地域の人材活用についての校内研修会の中で、地域にアテネパラリンピックに出場される方がおられることを知り、この資料を使った授業を本校の道徳教育公開研究会で行うことになった。後日、本校の卒業生であることも分かり、講演もしていただくこととした。

先輩であり、4歳の時交通事故で片足を失いながらも、くじけることなく自らの夢を実現された本人を目の前にして、生徒たちの目の輝きは、いつもと違っていった。地域の広い人材活用とともに、卒業生の活用についても考えていきたい。



本校卒業生でもある崎本龍司さんの講演

### (3) 教員の指導技術の向上

#### 授業研究

検証的な取組として、「掃除について考える」(1学年研修)、「車いすの少年」(2学年研修)を、指導法の工夫に関わる取組として、「二度と通らない旅人」(校内研修会)、「裏庭の出来事」(2学年研修)を行った。

これらの研修には、広島市教育委員会から指導主事を招き、指導・助言をいただき、指導案の訂正・修正を行い、より良いものにすることができた。

#### 研修

指導案づくりや指導法の工夫についても、校内研修会をもち、広島市教育委員会の指導主事の指導・講話を受け、本校道徳教育の方向性の確認や意識の統一、指導技術の向上をめざした。



道徳教育の目標・内容、指導の基本方針や学習指導案の作成について

地域・家庭と連携した道徳教育のあり方

「道徳の時間」の授業の工夫

また、第三回広島県道徳教育研究協議会(11月開催)や本校の道徳教育公開研究会(2月開催)においては、広島大学大学院教育学研究科の坂越正樹教授の講話と指導・助言を受け、研修を深めた。

これらの取組の結果、「道徳」の授業への教師の意識や意欲が高まり、ネームカードの活用や資料の提示方法や発問の工夫など意欲的な取組が見られるようになり、着実に指導技術が向上した。

#### 道徳教育公開研究会の実施

1年間の取組の成果の発表と検証の場として、全学級で道徳の授業を行ない、市内の教育関係者とともに保護者・地域の方にも公開した。



授業後の協議会では、広島県教育委員会、広島市教育委員会の指導主事、広島大学の坂越正樹教授より、授業の講評とともに、今後の課題や取組についての助言をいただいた。

## 5 第1年次の研究の成果と課題

### 成 果

- ・ 本校はこれまでも、さまざまな機会をとらえて、地域との連携を進めてきており、その地域や保護者の協力的雰囲気醸成されつつある。今年度の取組においても、その雰囲気の中で、地域や保護者の方々の協力を得て、取組を進めることができた。今後の更なる連携への見通しが持てた。
- ・ 地域の人材について、これまでの「総合的な学習の時間」や「道徳」のゲストティーチャー等を分野別に整理したことにより、地域の人材活用がしやすくなるとともに、人材の開拓が必要な分野などを明らかにすることができた。
- ・ 研修会や授業研究を進める中で、体験活動との関連づけや指導方法の工夫など、道徳教育への取組に対する教職員の意識・意欲が高まってきた。

### 課 題

- ・ 道徳の授業の指導技術の向上を図る。
- ・ 道徳教育の観点から、環境整備に努める。
- ・ 地域との連携においては、「総合的な学習の時間」でのこれまでの取組を生かしながら、更に道徳教育との有効な関連づけを検討するとともに計画的な連携を図る。
- ・ 生徒自ら生き方を考えるきっかけや家庭との連携の手段としての「心のノート」の有効な活用を図る。
- ・ 家庭・地域の人材の更なる開拓、活用の推進とともに、より有効な活用を図る。
- ・ 研究成果等の効果的な情報発信を行う。